大谷學報　第十九卷　第三號　一一四

兒童の宗教意識發達に關する實驗的研究

—主として就學前期及び低學年兒童に就いて—

守屋光雄

一、序

こゝに私の實驗を報告するに當つて、先づ以て、本研究の文獻的考察について詳述すべきであるが、文獻的考察のみに徒らに紙面を費して、實驗の論述に缺くる所あるを憂ひ、こゝには、宗教心理學上の代表的文獻を列擧して置く程度に止める。

抑々宗教心理學が科學的方法によつて學的に研究され初めたのは、實に十九世紀末期からであつて、その歴史は未だ數十年に過ぎぬのであるが、歐米諸國中その研究の最も盡んなのは、米國であつて、歐洲諸國の研究が主として哲學的、體系的、現象的研究なるに對して、米國にあつては、經驗的、實際的研究が多く、實際の宗教々育上の問題とも關聯されて研究されてゐるものも少くない。我が國の宗教心理學は、大正の初期頃以來外國(主として米國)の諸著述、研究の飜譯、飜案が多く、オリジナルな著述が少いのであるが、近年に至り漸く實際宗教々育上からの欲求にも助けられて、各觀點よりの研究が出でつゝある。

(イ) 米國の宗教心理學

Daniels A. H. The New Life (American Journal of Psychology, 1895)

Leuba J. H. The Psychology of Religion, 1899.

Starbuck E. D. The Psychology of Religion, 1899.

Coe G. A. The Psychology of Religion, 1916.

James W. The Varieties of Religious Experience, 1902.

Pratt J. B. The Psychology of Religious Belief, 1907.

Ames E. S. Psychology of Religious Experience, 1910.

King I. The Development of Religion, 1910.

Pratt J. B. The Religious Consciousness, 1920.

Hall. S. The Moral and Religious Training of Children (Princeton Review, 1882)

(ロ) 獨國の宗教心理學

Troeltsch E. Psychologie und Erkenntnistheorie in der Religionswissenschaft, 1905.

Wobbermin G. Die Religionspsychologische Methode in Religions-Wissenschaft und Theologie, 1913.

Girgensohn K. Der Seelische Aufbau des Religiösen Erlebnis, 1921.

(ハ) 佛國の宗教心理學

Flournoy T. Les principes de la psychologie religieuse, 1902.
Delacroix H. La religion et la foi, 1922.

（リ）英國の宗教心理學

Thouless H. An Introduction to the Psychology of Religion, 1923.
Selbie B. The Psychology of Religion, 1924.

（ホ）我が國の宗教心理學

プラット著　岡島誘譯「宗教心理講話」（明治四十四年）
スターバック著　小倉清三郎譯「宗教心理學」（大正四年）
トレルチ著　佐野勝也譯「宗教哲學の主要問題」（大正十年）
ゼームス著　比屋根安定譯「宗教經驗の諸相」（大正十一年（昭和四年（改訂））
エームス著　高谷實太郎譯「宗教心理學」（大正十一年）
コー著　藤井貢譯「宗教心理學」（大正十四年）
キング著　高野正治譯「宗教の發達」（大正十四年）
ドラクロア著　古野清人譯「宗教心理」（大正十五年）
リューバ著　原田敏明譯「宗教の心理學的研究」（昭和二年）
石神　德門「宗教心理の研究」（大正元年）

飯沼　龍遠「現代日本人の信仰」（大正七年）
西澤　頼應「現代青年の宗教心」（大正七年）
伊藤　堅造「宗教心理學」（大正十年）
關　寛之「兒童宗教々育」（昭和四年）
大場　千秋「呪の信仰」（昭和四年）
今田　惠「宗教心理學」（昭和九年）
上野　隆誠「宗教心理學」（昭和十年）
元良勇次郎「現在學生の宗教心に關する調査」（哲學雜誌第十五卷、明治三十三年）
松本亦太郎「實在の信仰に對する心理的見解」（丁酉倫理會講演集、明治四十三年）
城戸幡太郎「兒童の神に對する態度の發達」（兒童研究所紀要第二卷、大正七年）
關　寛之「兒童の宗教意識に於ける恒久領域」（宗教研究、第七卷）
關　寛之「基本選定兒童群に於ける宗教意識の基礎的研究」兒童研究所紀要　第十三卷）
大場　千秋「兒童宗教意識の諸相」（宗教々育、五ノ一、四、六、七）
大場　千秋「兒童及び青年の宗教意識」
小原　圓芳「教育の根本問題としての宗教」
青木誠四郎「青年の宗教的傾向」

海老澤　亮「教勢調査報告」

宗教々育ニ關スル文献ハ省略ス。

右は、最も代表的なる文獻のみを擧げたのであるが、それらの中に於ても宗教意識に關する研究調査は、外國に於ても我が國に於てもかなり多くある、而して、其の多くのものは、成人、青年、學童(高學年の)に關するもので、就學前期及び低學年兒童の宗教心に關する研究は極めて乏しい。

かゝる幼兒の宗教心に關する研究がなされないのは、二つの大きな理由によると思ふ。その一つは、他の兒童心理學上の研究の場合と同樣、就學前期又は低學年兒童の心理學的研究(特に實驗的研究)は、極めて困難を伴ふものであるとされてゐることゝ、他は、之と相聯關して、この期の兒童の宗教意識の研究を無價値と認めることゝである。(註)これらの點に就いては、私が既に從來から主張してゐる如く、周到なる用意の許では、兒童心理學の實驗的研究は可能にして、且つ重要な意義を有するのである。成人、青年、兒童の宗教意識を研究せんとするならば、それ以前の時期から之を發生的に研究すべき事は當然である。

(註)　守屋光雄　就學前期に於ける兒童の內觀についての實驗的研究(實驗心理學研究、第三卷、昭和十一年)
同　就學前期兒童の課題解決に於ける行動觀察(實驗心理學研究、第四卷、昭和十二年)

二、研究の目的

右に述べた如く、我が國に於ても、學童、青年、成人、老人等の宗教意識に關する調査研究は、可成なされてゐるのであるが、就學前期及び低學年の兒童に就いてなされたものは見出し難い。且つ今迄行れ來つた研究の多くは、横

斷的なもの多く、縱斷的、發生的なものは少ない。

そこで、私は、人間の宗教意識の心理學的研究として、之を發生的に調査研究せんとしたのである。卽ち先づ、私は(宗教的)環境を異にせる就學前期及び低學年兒童に於ける、神佛の觀念、宗教的行爲に對する態度等に就いて調査し、彼等の宗教心の一般的傾向を覗ひ、併せて(宗教的)社會的環境の及ぼす影響を見、その結果より此の期の兒童宗教々育上に何等かの暗示を與へ、更に、かゝる宗教心を通して見られる兒童の心性上の特徵をも捉へんと志したのである。

三、研究の材料

就學前期兒童としては京都市に於て、夫々環境及び主義を異にせる三群の幼稚園兒約四百人、卽ち、A群—市中央部公立幼稚園兒約百五十人、B群—佛教幼稚園兒約百二十人、及びC群—キリスト教幼稚園兒、約百三十人の三群の園兒に就いて行つた。低學年兒童としては、K小學校第一學年生約百六十人に就いて行つた、之をD群と名付く。

四、研究の方法

一般心理學の研究法と同樣、宗教心理學の研究法に於ても、傳記法、比較法、質問紙法、並に直接的な內觀法、實驗法等が用ゐられてゐるが、特に質問紙法が多く採用されてゐる。質問紙法の長所及び缺點に就いては、常に論ぜられてゐる所であるが、質問事項の選擇、指示、被驗者の解答態度、結果の統計的處理法等に關して、周到なる注意を以て行ふならば、宗教心理學研究上の有意義なる一方法である事は云ふ迄もない。但し、今私がこゝに調査の對象となす如き兒童にあつては、未だ文字を筆答する事が不可能なる故、從來の質問紙法を用ゐることは出來ない。こゝに

私は、問診法又は會談法とでも名づくべき、これ迄用ゐられなかつた方法による事とした。會談法とは、實驗者が、個人に直接面會して質問應答を重ね、之を記錄し、その結果を處理して結論を導く方法である。この方法は、從來の質問法の缺點を補ひ得るものである。

實際私の調査に於ては、兒童を一人つゞ引見し、氣樂な氣持で談話的に質問し、兒童の答は、兒童に見えぬ所にゐる他の檢査者によつて記錄された。これによつて、兒童は、極めて自由に、自發的に返答することが出來た。

五、質問事項

右の如き會談法により別揭の調査表にならつて質問するのである。先づ會談に馴れる事と、多少でもこの豫備質問によつて兒童の神佛の觀念が誘導されはせぬかと云ふ意圖とから、「一番偉いと思ふものは何か」「一番惡いと思ふものは何か」「一番こわいと思ふものは何か」「大きくなつたら一番何になりたいか」と云ふ四事項を質す。以下に、その兒童の態度や答に應じて順序をかへて質問する。簡單に說明すると、「神(佛)はあると思ふか、ないと思ふか」「神と佛は同じか、違ふか」「神(佛)は、何幾あるか」「神(佛)は、どんな姿をしてゐるか」「神(佛)は、何處に在るか」「神(佛)は、どんな事をするか」「何が神(佛)になるか」「お宮(お寺)におまゐりしたことがあるか、ないか」「何故おまゐりしたか」「何をお願ひしたか」「お願ひが叶へられたか」「何がお祀りしてあるか」「お墓まゐりしたことがあるかないか、お墓の中に何があるか」「自分の家に神棚(佛檀)があるかないか」「もし死んだらどうなるか」　尤も質問は、兒童に理解出來る樣な言葉を使つてなされねばならぬが、暗示的誘導的な言葉はさけねばならぬ。欄外の知能、性格、體格等の評價は、保姆諸氏に依賴す。

兒童の宗教心に關する調査用紙　（守　屋）			
豫備質問	一番偉いもの		
	一番惡いもの		
	一番こわいもの		
	一番何になりたい		
		神	佛
神佛とはどんなものか	有無		
	異同		
	數		
	姿		
	所在		
	行ひ、働き		
	生成		
		神社（お宮）	佛閣（お寺）
おまねり	おまねりの有無		
	おまねりの理由		
	祈願事項		
	祈願の結果		
	本體（尊）		
家庭・環境	お墓まねりの有無		
	神棚の有無		
	佛壇の有無		
	死後の世界		

知能　上　中　下　　姓名　　男女

性格　外　中　内　　昭和　年　月　日生（　）

體格　甲　乙　丙　　昭和　年　月　日施行

職業（家庭の）

宗教（家庭の）

幼稚園名

小學校名

六、研究の結果

兒童の解答を各質問事項別にやゝ具體的に表示すれば第一表の如くなる。更に之を內容的に大別その顯著なるものを表示すれば第二表の如くなり、終りに、A、B、C各群の就學前期兒童及びD群の低學年兒童の全體の總括的結果を表示せば、第三表、第四表の如くなる。

讀者は、面倒を厭はずこれらの諸表を通覽していたゞきたい。吾々は、第一表及び第二表によつて、各群の兒童の神佛に關する觀念及び宗教心等の特徵及び異なれる環境、(宗教上の)主義がこれらの兒童に及ぼす顯著なる影響を知る事が出來る。又第四、第五表より、これらの兒童の神佛觀、宗教心等の一般的特徵を見る事が出來る。

第一、表

一番偉いと思ふもの

A				B		
天皇陛下	四六人	四二%	巡査	三	三	天皇陛下	三三	四一
同僚の名	二八	二五	天照大神	二	二	軍人・兵隊さん	一二	一五
お父さん	八	七	神さん	二	二	東郷元帥	一〇	一二
大將さん	六	五	お日さん	一	一	お父さん	四	五
神武天皇	四	四	加藤清正	一	一	大將さん	三	四
乃木大將	三	三	桃太郎	一	一	乃木大將	二	二
東郷元帥	三	三	鬼	一	一	明治天皇	二	二
			友達のある人	一	一	同僚の名	二	二
			計	一一〇	一〇〇			

巡査	二	二	幼稚園の先生	四	四	總理大臣	二
お母さん	二	二	大將さん	二	二	大將	二
大元帥	一	一	皇太后陛下	一	一	寶物	一
神武天皇	一	一	えゝ子	一	一	壁	一
神さん	一	一	えゝ人	一	一	風	一
サムライ	一	一	お祖父さん	一	一	狐	一
園長さん	一	一	大臣	一	一	龜	一
お兄さん	一	一	桃太郎	一	一	照宮様	一
支那人	一	一	計	九八	一〇〇	乃木大將	一
桃太郎	一	一	D			金太郎さん	一
象	一	一	天皇陛下	六九	四四	大元帥	一
計	八一	一〇〇	神様	二一	一三	お父さん	一
C			お日様	一九	一二	お爺さん	一
天皇陛下	三七	三八	兵隊さん	六	四	お姉さん	一
神様	一二	一二	鼠さん	六	四	友達	一
同僚の名	一一	一一	鬼の大將	五	三	友達の名	一
軍人・兵隊さん	七	七	皇后陛下	四	三	先生	一
東郷元帥	七	七	明治天皇	三	二	計	一五八
お父さん	七	七	人間	三	二		一〇〇
巡査	四	四	お月様	三	二	一番惡いと思ふもの	

A

	人	%
泥棒(盗人)	三〇	三二
同僚の名	一九	二〇
支那(人)	一二	一三
鬼	五	五
悪者	二	二
お祖母さん	二	二
新兵	二	二
乞食	二	二
お化け	二	二
狼	二	二
馬賊	一	一
匪賊	一	一
朝鮮人	一	一
土人	一	一
楠正行の敵	一	一
お兄さん	一	一
猿	一	一
豹	一	一
蛇	一	一
犬	一	一
フランス人	一	一
たゝく事	一	一
なかす事	一	一
友達のないの	一	一
子取り	一	一
鐵砲持つて黒いまんと着て茶色のうちのお父さんみたいな眼鏡をかけてピストルもつてみやはるおつさん	一	一
計	**九四**	**一〇〇**

B

泥棒(盗人)	三五	三八
支那(人)	一〇	一一
お化け	五	五
鬼	四	四
敵	四	四
乞食	三	三
蛇	三	三
同僚の名	二	二
悪者	二	二
子取り	二	二
朝鮮人	二	二
匪賊	二	二
新兵	一	一
お母さん	一	一
お父さん	一	一
一等兵	一	一
二等兵	一	一
犬取り	一	一
キングコング	一	一
狸	一	一
熊	一	一
虎	一	一
河馬	一	一
ロシヤ	一	一
計	**八六**	**一〇〇**

C

泥棒(盗人)	四八	五二
同僚の名	七	八
お化け	四	四
鬼	四	四

子取り	四	四
支那(人)	二	二
敵	二	二
乞食	二	二
狼	二	二
喧嘩	二	二
キタナイ人	一	一
兵隊	一	一
ルンペン	一	一
姉ちやん	一	一
匪賊	一	一
馬賊	一	一
お母さん	一	一
鹿	一	一
虎	一	一
狸	一	一
犬	一	一
ライオン	一	一
甘イモノ	一	一
外國	一	一

いたづらすること	一	一
計	**九二**	**一〇〇**

D

泥棒	八六	五七
鬼	一四	九
人殺	九	六
支那兵	六	四
乞食	六	四
鼠	五	三
猿	五	三
子取	四	三
支那	三	二
犬	二	一
雲	二	一
喧嘩	一	〇・七
地震	一	〇・七
悪物	一	〇・七
虎	一	〇・七
狸	一	〇・七
狼	一	〇・七

猫	一	〇・七
鷲	一	〇・七
計	**一五〇**	**一〇〇**

一番こわいと思ふもの

A

お化け(幽霊)	三〇人	二八%
狼	一五	一四
(大)蛇	八	七
ライオン	八	七
鬼	六	六
虎	三	三
同僚の名	三	三
泥棒	三	三
こわいものない	三	三
大将	二	二
お父さん	二	二
猪	二	二
鰐	二	二
子取り	二	二

巡査	一	一	計	一〇九	一〇〇
お母さん	一	一	B		
お祖父さん	一	一	お化け(幽靈)	三四	三三
お祖母さん	一	一	ライオン(獅子)	一〇	一〇
サイ	一	一	蛇	九	九
豹	一	一	泥棒(强盜)	七	七
ワシ	一	一	鬼	七	七
鯨	一	一	虎	五	五
骼駝	一	一	こわいものなし	四	四
狸	一	一	お父さん	三	三
牛	一	一	子取り	二	二
けだもの	一	一	猪	二	二
地震	一	一	狼	二	二
雷	一	一	犬	二	二
化物屋敷	一	一	雷	二	二
飛行機	一	一	同僚の名	一	一
天狗さん	一	一	巡査	一	一
夢	一	一	ターザン	一	一
桃太郎	一	一	象	一	一
大阪にある暗い所	一	一	猫	一	一

河馬	一	一	計	一〇三	一〇〇
ワニ	一	一	C		
豹	一	一	お化け(幽靈)	二七	二六
般若	一	一	ライオン(獅子)	一六	一五
飛行機	一	一	狼	九	九
火	一	一	こわいものない	八	八
夢	一	一	虎	八	八
日本	一	一	鬼	七	七
インキ	一	一	泥棒(强盜)	四	四
			蛇(大蛇)	四	四
			豹	四	四

同僚の名	三	三	子取	七	五	乞食	一	一
乞食	二	二	人殺	六	四	先生	一	一
お父さん	一	一	猪	六	四	日本の兵隊さん	一	一
お母さん	一	一	蛇	五	三	支那兵	一	一
お兄さん	一	一	ライオン	五	三	兵隊さん	一	一
巡査	一	一	虎	四	三	高射砲	一	一
毛虫	一	一	大蛇	二	一	雷	一	一
ゴリラ	一	一	強盗	二	一	計	一五五	一〇〇
猿	一	一	ギヤング	二	一	大きくなつら何になりたいか（男のみ）		
犬	一	一	狸	一	一	A		
山賊	一	一	人靈	一	一	軍人・兵隊さん	二九	五三%
黴菌	一	一	犬	一	一	學校の生徒	三	五
計	一〇五	一〇〇	龍	一	一	天皇陛下	二	四
D			馬	一	一	（陸軍）大將	二	四
お化け（幽靈）	二九	一九	蛙	一	一	海軍さん	二	四
鬼	二四	一五	鷲	一	一	畫かき	二	四
地震	一六	一〇	風さん	一	一	天照大神	一	二
火事	一一	七	お父さん	一	一	神さん	一	二
狼	九	六	死んだ人	一	一	宮様	一	二
泥棒	八	五	ルンペン	一	一			

偉い人	一	一	自動車屋	二	三
巡査	一	二	聯隊長	一	二
丁稚	一	二	偉い人	一	二
大工	一	二	神様	一	二
商賣屋	一	二	先生	一	二
罐詰屋	一	二	一年生	一	二
箱屋	一	二	大臣	一	二
八百屋	一	二	お兄さん	一	二
醫者	一	二	水兵	一	二
呉服屋	一	二	消防	一	二
自轉車屋	一	二	食堂のコック	一	二
消防夫	一	二	所長	一	二
計	**五五**	**一〇〇**	漫畫の繪かき	一	二
B			計	**六一**	**一〇〇**
兵隊(軍人)さん	三二人	五二%	C		
天皇陛下	六	一〇	軍人・兵隊さん	三一	七六
大將	三	五	大將	二	五
東郷元帥の樣に	二	三	電車の車掌	二	五
巡査	二	三	皇太后陛下	一	二
飛行士	二	三	醫者	一	二

えらい人	一	二	先生	二五	一八
一年生	一	二	兵隊さん	二五	一八
大臣	一	二	偉い人	一七	一二
お兄さん	一	二	お嫁さん	一二	九
計	**四一**	**一〇〇**	天皇陛下	八	六
			大將	六	四
			軍人	四	三
			お母さん	四	三
			總理大臣	四	三
			神様	三	二
			桃太郎さん	三	二

註、この質問に限り、A、B、Cに於ては主として男兒に就き問ひたるも女兒の答としては、お母さん、お姉さん、お嫁さん、お嬢さん、舞妓さん等があつた。

D

お姉さん	三	二
大臣	二	一
お父さん	二	一
お姫さん	二	一
皇后陛下	二	一
級長	二	一
赤十字看護婦	二	一
兄さん	一	一
踊り子	一	一
バスのお姉さん	一	一
可愛い人	一	一
歩兵	一	一
優等生	一	一
女の兵隊さん	一	一
繪書	一	一
忠義な人になりたい	一	一
副級長	一	一
皇太子殿下	一	一
神官	一	一
汽車運轉手	一	一
海軍大將	一	一
計	一四〇	一〇〇

神の姿態

A		
白い着物(服べゝ)着てる	一五人	三七%
目に見えぬ(見た事ない)	一一	一九
坐つてる	四	七
銀(色)の着物	二	三
黄色の着物	二	三
綺麗な風	二	三
紙にかいてある	一	二
着物みたいなもの着てる	一	二
金でぬつてある	一	二
黒い石	一	二
赤い着物きてはる	一	二
鐵で作つてある	一	二
弓もつてゐる	一	二
鈴もつてゐる	一	二
神功皇后さんみたいな風	一	二
綿かぶつてゐる	一	二
鏡みたいなもの	一	二
黒い着物	一	二
毛がばあとなつてゐる	一	二
四角の形	一	二
サムライみたいな風	一	二
坐つて目つぶつてはる	一	二
口ふさいでじつとしてはる	一	二
お行儀よう坐つてはる	一	二
白峯さんの神様みたい	一	二
大佛さんみたい	一	二
僕みたいな格好	一	二
まつすぐ立つてはる	一	二
じつとしてゐやはる	一	二
計	五九	一〇〇
B		
白い着物(服べゝ)着てはる	七	一八
目に見えぬ(見たことない)	五	一三
金色の着物(服・べゝ)着てはる	五	一三

裸の風	四	一〇
黒い着物きてはる	三	八
立つてはる	三	八
赤い着物着てはる	二	五
人間の形してはる	二	五
薄い着物きてはる	一	三
紫の着物きてはる	一	三
着物きてはる	一	三
こわい風	一	三
王様の様な風	一	三
笑つて坐つてゐる	一	三
手を合せてる	一	三
坐つてだまつてゐる	一	三
計	三九	一〇〇
C		
目に見えぬ(みた事ない)	二九	三九
白い服(着物・べゝ着てる)	一八	二四
きれいな風	八	一一
青い服きてはる	三	四
金のべゝきてはる	二	三
銀の服きてはる	一	一
黒い着物きてはる	一	一
茶色のべゝきてはる	一	一
いゝ着物きてはる	一	一
長いべゝきてはる	一	一
赤い風	一	一
立派な風	一	一
えゝ格好	一	一
洋服きてはる	一	一
立つてはる	一	一
丸い形	一	一
裸	一	一
木の札	一	一
石でつくつて人間みたいなよだれかけしてはる	一	一
十字架には、りつけられてある	一	一

計	七五	一〇〇
D		
目に見えない	五七	六六
綺麗な風	八	九
お光がさしてゐる	四	五
白い着物きてゐる	四	五
金色で光つてゐる	三	三
目をつむり坐つてゐる	三	三
黒い着物きてゐる	二	二
着物の様なものをきてゐる様に見える	一	二
人間の様な姿	一	一
よくふとつてゐる	一	一
笠きて默つて坐つてる	一	一
赤い前掛してゐる	一	一
お化けの様な	一	一
計	八七	一〇〇
A		
佛の姿		

	人	%
金でつくつてある	六	一八
黒い着物きてはる	四	一一
見えぬ(見たことない)	三	九
青い着物着てはる	三	九
白い服着てはる	二	六
銀色の着物着てはる	二	六
着物みたいもの着てはる	二	六
立つてはる	二	六
きれいな風	一	三
赤い着物きてはる	一	三
土で出來てる	一	三
鐵でつくつてある	一	三
木みたいなものに書いてあつて		
御光がさしてる	一	三
鈴持つてない	一	三
綿かぶらぬ	一	三
丸い顔してはる	一	三
丸い頭してはる	一	三
坐つてはる	一	三
毛がちよぼ〳〵生えてる	一	三

計	三五	一〇〇
B		
黒い着物(べゝ・服)着てはる	一五	三一
石で作つてある	四	八
金(黄)色の着物着てはる	四	八
赤い着物着てはる	三	六
裸	三	六
手合せてはる	三	六
白い着物着てはる	二	四
銀色の着物着てはる	二	四
茶色の洋服着てはる	二	四
ちやんとしてはる	二	四
坐つてはる	二	四
見えぬ	一	二
おとなしくしてゐる	一	二
きれいな風	一	二
煙	一	二
一本指	一	二
帶のぶら下つた着物着てはる	一	二

御地藏さんの樣な風	一	二
計	四九	一〇〇
C		
見たことない(見えぬ)	六	二〇
赤い着物きてはる	五	一七
きれいな風してはる	四	一三
黒い服きてはる	三	一〇
白いべゝきてはる	一	三
金のべゝきてはる	一	三
茶色の服きてはる	一	三
銀色のべゝきてはる	一	三
じつとしてゐる	一	三
立つてゐる	一	三
貯金箱のホテイさん	一	三
金の大黒さん	一	三
石で形がつくつて名が書いてある	一	三
手を合してゐやはる	一	三
土色で雪だるまみたいなもの	一	三

まん〳〵さん	一	三	天井	六	一三	(北野)天神さん	一	二
計	三〇	一〇〇	御家の中	五	一〇	(圓山の)祇園さん	一	二
D			上の方	三	六	まん〳〵さんの中	一	二
目に見えない	三九	五一	お宮の中に	三	六	上加茂	一	二
目に見える	一一	一四	お堂の中に	二	四	大きな石の所	一	二
白い着物きて坐る	六	八	何所の家にも	二	四	戸棚	一	二
金でつくつてある	四	五	遠いお國	二	四	散髪屋	一	二
古くきたなく見える	四	五	地べた	二	四	計	五二	一〇〇
赤い着物を着る	二	三	白峯さん	二	四	B		
立つてゐられる	二	三	東京	二	四	(神様の)お家(神棚)の中	八	一八
綺麗な姿	二	三	大阪	一	二	お墓の中	七	一六
おがんでゐる	二	三	天	一	二	お寺	四	九
強さうな	一	一	お寺	一	二	お宮	四	九
黒い着物きてゐる	一	一	きれいな所	一	二	天	三	七
お光がさしてゐる	一	一	地獄	一	二	佛さん(佛壇)の中	三	七
疊の上に坐る	一	一	向ふの方	一	二	外國	一	二
計	七六	一〇〇	小さいものゝ中	一	二	お郷里	一	二
神の所在			後の方	一	二	田舍	一	二
A			郷里	一	二	體の中	一	二
そこら中(世界中)	六人	一三%	道の角	一	二	宮	一	二

御堂	一	二	佛さんの中	一	一	天國	五	五
おいなりさん	一	二	偉い人の所	一	一	世界中何處にも	四	四
暗い所	一	二	まん〳〵さんの所	一	一	空	四	四
奥	一	二	みない	一	一	臺所	二	三
天井	一	二	うちの近く	一	一	天神さん	二	二
屋根	一	二	うまごや	一	一	床の間	二	二
佛さんの隣	一	二	二階	一	一	西の方	一	一
二階	一	二	禮拜所	一	一	庭の臺の上	一	一
棚	一	二	暗い所	一	一	綺麗な所	一	一
御飯食べる所	一	二	棚の上	一	一	雲	一	一
計	四四	一〇〇	向ふのお山	一	一	山	一	一
C			上	一	一	日本に	一	一
天	五八	六二	石の下	一	一	箱の中	一	一
空	四	四	お墓	一	一	計	一〇八	一〇〇
お家	四	四	計	九三	一〇〇			
森	三	三	D			佛の所在		
お宮	三	三	天上	三三	三一	A		
お寺	三	三	お宮及社	二七	二五	佛さんの御家の中(佛壇)に	八人	二九%
雲	二	二	家の中	一五	一四	どこにでも(世界に)	二	七
下	二	二	神棚の上	六	六	皆の家に	二	七

下に　二七
天　一四
お寺　一四
御所　一四
門の様な中に　一四
祇園さんに　一四
岡崎に　一四
上の方に　一四
地獄　一四
箱の中　一四
四角の中　一四
すみくだに飾つてある
花やら供へてある所に　一四
きれいにしてお祀りしてある所
に　一四
計　二八　一〇〇

B

佛のお家(佛壇)に　一二　三九
蓮の葉の上に乘つてゐて皆の人
がおがまはる所　一四
お墓　三一〇
御部屋　二四
四角い箱　二六
下に　二六
神さんの中　一三
まん〳〵ちやんの所　一三
高い高い所　一三
端の方　一三
お宮　一三
明るい所　一三
花の中　一三
臺所　一三
幼稚園　一三
計　三二　一〇〇

C

佛さんの御家　一四　三〇
お墓　五　一一
箱の中　五　一一
天　四　九
天の下　四　九
お寺　二　四
御部屋　二　四
奥　二　四
花の所　一　二
お山　一　二
暗い所　一　二
お二階　一　二
土の中　一　二
お座敷　一　二
タンスの上　一　二
幼稚園の前の自動車屋の隣り　一　二
計　四六　一〇〇

D

家及座敷に　二三　二二
寺　二二　二一
佛壇に　一六　一五
お墓　一〇　一〇
地下に　七　七
極樂に　四　四

天國に	四	四	
箱の中に	四	四	
棚の上	三	三	
世界中	二	二	
土の上	二	二	
天	一	一	
東の方	一	一	
人の住む所	一	一	
外	一	一	
道ばたに立つてゐる	一	一	
雲	一	一	
庭	一	一	
計	一〇四	一〇〇	

神佛の行爲

A

悪いことしたら(悪い人に)罰當てはる	一七人	二九%	
よい事をしやはる	八	一四	
(偉い人を、賢い人を)ほめてくれはる	四	七	
賢くしてくれはる	四	七	
何もしやはらへん	四	七	
じつとしてはる	三	五	
病氣になつたら助けてくれはる			
(かしこい人は病氣などせん樣に守つてくれはる)	三	五	
守つて下さる	二	三	
皆を偉くしやはる	二	三	
強くならしてくれはる	二	三	
賢こうしたり繪も上手にしてくれはる	二	三	
何もしてもろてない	二	三	
賢い人は顏なでてくれはる	一	二	
歯をなほさはる	一	二	
お晝の御飯をこしらへて下さる	一	二	
僕に御飯をくれはる	一	二	
サイハラヒ振らはる	一	二	
計	五八	一〇〇	

B

よい事(偉い事賢い事)をする	一九	二七	
悪い事したら罰當てはる	一八	二六	
守つて下さる	五	七	
可愛がる	四	六	
賢こうする	三	四	
病氣をなほさはる	三	四	
えゝ事したらほめてくれはる	二	三	
何もしやはらへん	二	三	
拜まれる	二	三	
おこらはる	一	一	
お仕事しやはる	一	一	
こわい事をする	一	一	
色んな事して下さる	一	一	
用をする	一	一	
風邪を引かぬ樣にする	一	一	
わるい事をする(こわい顏して)	一	一	
御菓子をくれはる	一	一	

忍術を使ふ	一	一	一
眞心を守る	一	一	一
みゝずのお使をする	一	一	一
字を書いてはる(高野山で)	一	一	一
計	七〇	一〇〇	
C			
えゝ事をして下さる	二二	二三	
守つて下さる	二〇	二一	
惡い事したら罰當てはる	四	四	
(小供を)可愛がつて下さる	四	四	
お花を咲かす	三	三	
雨を降らしたり日をてらしり			
えらい事をしやはる	三	三	
お花をこしらへる	三	三	
人をつくらはつた	三	三	
木をおつくりになる	三	三	
賢こうしてくれはる	二	二	
霰を降らす	一	一	
雲をつくる	一	一	

雷を落す	一	一	一
お米を下さる	一	一	一
色んなものを作らはる	一	一	一
お家をつくつて下さる	一	一	一
太鼓をたゝかはる	一	一	一
蘭を咲かす	一	一	一
小供の好きな事する	一	一	一
百合の花を咲かす	一	一	一
人を生きさす	一	一	一
お話してくれはる	一	一	一
やさしい事しやはる	一	一	一
〃えゝ事しなさい〃つて云はゝる	一	一	一
賢い事したら賢いと云はゝる	一	一	一
賢い事をしやはる	一	一	一
強い事をしやはる	一	一	一
人を見てはる	一	一	一
人を地獄に入れる	一	一	一
きれいにしやはる	一	一	一

えゝ事を教へてくれはる	一	一	一
自動車に引かれん樣にして下さる	一	一	一
子供を大きくしてくれはる	一	一	一
丈夫になる樣にしてくれはる	一	一	一
どんな事でもしやはる	一	一	一
じつとしてはる	一	一	一
病氣のケガをなほす	一	一	一
計	九七	一〇〇	
備考　神の創造作用	二四	二四	
D			
守つて下さる	四三	三八	
賢こうして下さる	一七	一五	
大事にして下さる	九	八	
勉强よく出來る樣	九	八	
偉くなる樣	八	七	
何もして下さらない	六	五	
立派な人にして下さる	三	三	
愛して下さる	二	二	

病氣にならぬ樣なほして下さる	二	二	
助けて下さる	二	二	
お米を作つて下さる	二	二	
好い子にして下さる	二	二	
育てゝ下さる	一	一	
極樂に行く樣	一	一	
人間の悪い事してるのを見てゐられる	一	一	
樂しくして下さる	一	一	
おとなしくして下さる	一	一	
怪我せぬ樣	一	一	
ほめて下さる	一	一	
計	一一二	〇〇〇	

神佛の成生

A

偉い人	三五人	五七%	
死んだ人	九	一五	
賢い人	四	七	
強い人	三	五	
天皇陛下死なはつたら人	二	三	
親切な人	一	二	
大將さん	一	二	
乃木大將	一	二	
一番早い人	一	二	
兵隊さん	一	二	
佛さん	一	二	
御地藏さん	一	二	
計	六一	一〇〇	

B

偉い人	三九	四八	
賢い人	一四	一七	
死んだ人	八	一〇	
えゝ人	六	七	
強い人	四	五	
お祖父さん、お祖母さん	二	二	
人間	二	二	
佛さん	一	一	
お父さん	一	一	
自分がなる	一	一	
男の人がなる	一	一	
天皇陛下	一	一	
神樣	一	一	
計	八一	一〇〇	

C

偉い人	三八	四八	
賢い人	一一	一四	
えゝ人	九	一一	
死んだ人	九	一一	
悪い人	三	四	
強い人	二	三	
天皇陛下	一	一	
神さん	一	一	
佛さん	一	一	
お父ちやん	一	一	
お母ちやん	一	一	
兵隊さん	一	一	
忠義の人	一	一	

きれいな人	一	一	一
計	八〇	一〇〇	
D			
偉い人	七五	六〇	
死んだ人	二二	一七	
よい人	九	七	
死んだ古い人	六	五	
賢い人	四	三	
字のうまい人	一	一	
天皇陛下	一	一	
皇后陛下	一	一	
天神さん	一	一	
兵隊さん	一	一	
死んだ偉い人	一	一	
心の綺麗な人	一	一	
石	一	一	
お爺さん	一	一	
お婆さん	一	一	
計	一二六	一〇〇	

祈願事項

A			
賢こうなります様に	三六人	三二%	
默つておまゐりした	三一	二七	
勉強がよう出來ます様に	一七	一五	
強く（丈夫。達者に）なる様に	七	六	
偉い人になります様に	四	四	
お習字が上手になります様に			
（天神さん）	四	四	
南無阿彌陀佛	三	三	
ケガせん様に	一	一	
死なん様に	一	一	
お母さんの病氣がなほる様に	一	一	
長生します様に	一	一	
目がなほる様に	一	一	
えゝ子になります様に	一	一	
齒がなほります様に	一	一	
あんぢようなります様に	一	一	
お天氣になります様に	一	一	
喧嘩せんやうに	一	一	
南無妙法蓮華經	一	一	
アンと云つておまゐりする	一	一	
計	一一四	一〇〇	
B			
默つておまゐりする	五三	六九	
南無阿彌陀佛	一二	一六	
偉い人になります様に	三	四	
賢こうなります様に	二	三	
兵隊になります様に	一	一	
風邪をひかぬ様に	一	一	
風邪をなほす様に	一	一	
お父さんが歸る様に	一	一	
のん〳〵さんと云ふ	一	一	
まん〳〵さんと云ふ	一	一	
あんと云ふだけ	一	一	
計	七七	一〇〇	
C			
默つてる（何も云はぬ）	三六	五四	

祈禱の文句		
（天のお父様、ごはんをいたゞきます、ありがとう、イエス様の御心、ありがたう等）	一一	一七
南無阿彌陀佛	四	六
お守り下さる様に	二	三
強くなる様に	二	三
兵隊になる様に	一	二
大きくなります様に	一	二
病氣の人達をなほす様に	一	二
迷子になりません様に	一	二
えゝ子にして下さいと云ふ	一	二
偉くなります様に	一	二
おりこうになります様に	一	二
お父様の病氣がなほります様に	一	二
高天原へ行ける様に	一	二
あんて云ふだけ	一	二
御父様が外國へ行つたから歸へる迄丈夫でゐる様に	一	二

D		
計	六六	一〇〇
南無阿彌陀佛	三二	二四
拜む（ダマツテ手ヲタヽキ）	三二	二四
日本勝つ様	二一	一六
賢こう好い人になる様	一八	一四
勉强が出來る様	一四	一〇
南無妙法蓮華經	七	五
病氣をなほして下い	五	四
達者にして下さい	二	一
お父さん早く歸られる様	一	一
好い年を取る様	一	一
親孝行になる様	一	一
無事	一	一
何事もなくて有難う	一	一
計	一三五	一〇〇

お墓の中

A		
お祖父さん	三七人	三三%
お祖母さん	三一	二七
死んだ人	八	七
中の人知らん＊	七	六
兄さん	五	四
神さん	四	四
お父さん	四	四
弟	三	二
赤ちやん	三	二
佛さん	二	二
誰もゐやはらへん	二	二
よその人	二	二
親類の人	二	二
お母さん	一	一
丁稚さん	一	一
矢野さん	一	一
計	一一三	一〇〇

B		
お祖父さん	二〇	二二
お祖母さん	一二	一三
死んだ人	一一	一二

中はわからぬ	七	八	御輿する人	一	一
赤ちやん	六	七	計	八九	一〇〇
神　さ　ん	五	六	C		
坊んさん	三	三	お祖父さん	二二	二七
親類の人	三	三	お祖母さん	一五	一九
お父さん	三	三	神　さ　ま	一〇	一二
お母さん	二	二	死んだ人	一〇	一二
まん〳〵さん	二	二	お母さん	四	五
佛　さ　ん	二	二	まん〳〵さん	三	四
人	二	二	赤ん坊	三	四
お叔父さん	一	一	お兄さん	三	四
絹江ちやん	一	一	お姉さん	三	四
骨	一	一	よその人	二	二
え　ゝ　人	一	一	幽　靈	一	一
偉　い　人	一	一	お父さん	一	一
兄ちやん	一	一	妹	一	一
姉ちやん	一	一	明治天皇	一	一
石	一	一	佛　さ　ん	一	一
よその人	一	一	背中の曲つた人	一	一
四十七士	一	一	計	八一	一〇〇

			D		
			お爺さん	四一	三六
			死んだ人	三一	二六
			兄弟姉妹	一七	一五
			神　様	八	七
			坊さん	七	六
			佛　さ　ん	三	三
			死んだ古い人	一	一
			兵隊さんの死んだ人	一	一
			偉　い　人	一	一
			地藏さん	一	一
			殿　様	一	一
			叔父ちやん	一	一
			乞　食	一	一
			親切な人	一	一
			計	一一五	一〇〇
			死後の世界		
			A		
			お墓へ行く	四六人	五二%
			燒場へ行く	五	六

病院へ行く	四	五	
佛さんになる	三	三	
お葬式に行く	三	三	
神様になる	二	二	
神様の所へゆく	二	二	
極樂へゆく	二	二	
骨になる	二	二	
山へゆく	二	二	
お寺へゆく	二	二	
うそついたら地獄へ行く	一	一	
たかはる	一	一	
皆死んでほる所へゆく	一	一	
死ぬのいや、わからへん	一	一	
死なへん、自働車にひかれて首ちぎれたら仕方ない、お醫者様へゆく	一	一	
死なへん、もし死んだらどこへゆくか知らん	一	一	
廣島のおばあちやんのお寺へゆく、又化けて出たる、弟がゐる			
さかい僕一人死んでも何んともない	一	一	
お醫者さんに行つて次に燒きにゆく	一	一	
自働車に乘つて火の所にゆく	一	一	
山に燒きに行かれる、それから雲の上にゐる閻魔さんの所へゆく	一	一	
僕ゐへん様になる、お墓の下に行つて灰になる	一	一	
土の中に入つてしまふ、目が見えん様になる	一	一	
お墓に入る、よい事した人は生きかへる	一	一	
兵隊さんみたいに死ぬ、お葬式の自働車乘らんならん、灰になりもやして家に歸れへん	一	一	
姉さん、叔母さん、お祖父ちやん死なはつた、僕死なへん、死んだら、お父ちやんやお母ちやん、僕大事やし、泣かはる、死んだらあついえ	一	一	
計	八八	一〇〇	
B			
お墓へゆく	五五	六	
お寺へゆく	四	五	
地獄へゆく	四	五	
自働車に乘つて燒場へゆく	三	三	
神様の所へゆく	三	三	
天にゆく	二	二	
上に入る	二	二	
極樂へゆく	二	二	
まんまんさんの所へ	二	二	
骨になる	一	一	
お山へゆく	一	一	
お醫者さんへゆく	一	一	
病院へいつて葬式にゆく	一	一	
うらみに出る	一	一	
田舍へ行く	一	一	
佛さんの所へゆく	一	一	
南禪寺へゆく	一	一	

法然院へゆく	一	一	一
汽車で東京へゆく	一	一	一
大阪へゆく	一	一	一
計	八八	一〇〇	
C			
お墓へゆく	五一	四九	
天へゆく	二二	二一	
地獄へゆく	七	七	
お寺へゆく	四	四	
お山へゆく	三	三	
極樂へゆく	三	三	
燒場で燒かれて神さんになる			
佛さんの所へゆく	三	三	
まんまんさんの所へゆく	二	二	
神さん所へゆく	二	二	
燒場へゆく	一	一	
お宮さんへ入る	一	一	
土の中へ入れられる	一	一	
向ふの方へほかさはる	一	一	
木の箱に入れ、自働車でもつて行つて、穴へ埋める	一	一	
お祖母ちやんと遊ぶ、おもちやで山の中で遊ぶ	一	一	
計	一〇四	一〇〇	
D			
墓の中(骨になる)	一〇九	七六	
天國	七	五	
極樂	七	五	
地獄	五	三	
火葬場	三	二	
地獄極樂	三	二	
山へ	三	二	
土の中	二	一	
石の中	一	一	
墓の中で人になり生れ出る	一	一	
葬式する所	一	一	
神樣になる	一	一	
佛のそばへ	一	一	
計	一四四	一〇〇	

備考

地獄

1、閻魔さんがゐやはつて、僕行つたら、びつくりしやはる

2、油がもやしてある

3、汚ない川があつて、惡い事したら、そこへほかさはる

極樂

1、きれいな家がある

2、大將さんがゐやはる

第二表

○一番偉いと思ふもの

A		B		C		D	
天皇	四五%	天皇	四五%	天皇	三八%	天皇	四九%
同僚	二五	軍人	三五	軍人	一八	神	一三
軍人	二〇	神	二	神	一三	軍人	六
神	五						

○一番惡いと思ふもの

A		B		C		D	
泥棒	三〇	泥棒	三六	泥棒	三八	泥棒	五一
鬼	五	鬼	五	鬼	四	鬼	九
						支那	六

○一番こわいと思ふもの

A		B		C		D	
お化け(幽靈)	三〇	お化け(幽靈)	三三	お化け(幽靈)	一六	お化け(幽靈)	一九
鬼	六	鬼	八	鬼	七	鬼	一五

○一番何になりたいか

A		B		C		D	
軍人	六〇	軍人	六六	軍人	八〇	軍人	二七
神	五	神	二	神	一	先生	一八
						神	二

○神の姿態
擬人的……七五
無姿……二〇
非擬人的……八
○佛の姿態
擬人的……八〇
非擬人的……一一
無姿……九
○神の所在
地上……五四
天……一九
世界中……一六
○佛の所在
地上……六八
世界中……一四
天……七
地下……七
○神佛の行爲
德政者的……五三

擬人的……七六
無姿……二四
擬人的……八八
非擬人的……八
無姿……四
地上……六九
地下……一六
天……一五
地上……七七
地下……一六
天……三
德政者的……五七

擬人的……五八
無姿……三九
非擬人的……三
擬人的……七六
無姿……一九
非擬人的……三
天……七四
地上……一九
地下……四
地上……七六
地下……一三
天……一一
德政者的……六五

無姿……六六
擬人的……三四
無姿……五一
擬人的……三七
非擬人的……一二
天……四〇
地上……二五
神社……二五
地上……四七
寺……二一
地下……一五
德政者的……九四

裁判者的……二九
無　爲……一六
○神佛の成生
偉・强・賢人……六九
死　人……一七
佛……四
○祈願事項
知　的的……五〇
無……二八
身　體的……一二
道　德的……六
南無阿彌陀佛……三
○墓の中
家　族……七四
死　人……八
神……四
佛……二
裁判者的……二九
偉・强・賢人……七八
死　人……一四
神……二
神……二
無……七〇
南無阿彌陀佛……一六
道　德的……五
身　體的……四
知　的……三
家　族……五二
死　人……一二
神……六
佛……五
創造者的……二八
裁判者的……五
偉・强・賢人……七五
死　人……一一
佛……二
佛……二
無……五六
祈　り……一七
身　體的……一二
南無阿彌陀佛……六
道　德的……五
知　的……二
家　族……六五
神……一六
死　人……一二
佛……三
無　爲……五
裁判者的……一
偉・强・賢人……七〇
死　人……一七
神……二
無……二四
南無阿彌陀佛……二四
道　德的……一四
日本の戰捷……一六
知　的……一〇
南無妙法蓮華經……五
家　族……五一
死　人……二七
神……七
佛……三

○死後の世界

墓……五九
極樂……二
墓……六六
地獄……五
極樂……二
天……二
墓……五五
天……二二
地獄……七
極樂……三
墓……七六
天……五
極樂……五
地獄……三

一四六

第三表（A・B・C）

一番偉いと思ふもの		一番悪いと思ふもの		一番こわいと思ふもの		一番何になりたいか	
天皇	一二四人 四三%	人（泥棒）	二一九人 八〇%	動物	一二六人 三九%	軍人	一〇七人 六一%
軍人	五八 二〇	動物	二〇 七	お化け	九二 二九	家職	一七 一一
同僚	四一 一四	鬼	一三 五	人（泥棒）	四九 一五	天皇	八 五
親	二一 七	お化け	一一 五	鬼	二二 七	生徒	五 三
神	一八 六	道德的悪	三 一	なし	一五 五	神	三 二
巡査	九 三	其の他	五 二	自然力	四 一	巡査	三 二
先生	四 一	計	二七一 一〇〇	其の他	九 三	其の他	一四 九
其の他	一四 五			計	三一七 一〇〇	計	一五七 一〇〇
計	二八九 一〇〇						

佛の姿態		神の姿態		神の所在		佛の所在	
擬人的	九四 九〇	擬人的	一二一 六八	天上	八五 四五	地上	八二 七五

非擬人的	九	八
無　姿	六	六
計	一〇四	一〇〇

無　姿	五一	二八
非擬人的	七	四
計	一七九	一〇〇

地　上	七四	三九
地　下	一一	六
世界中	八	四
他　界	七	四
體　內	一	一
其の他	三	二
計	一八九	一〇〇

地　下	一三	一二
天　上	八	七
世界中	四	四
其の他	三	三
計	一一〇	一〇〇

神佛の行爲

德政者的	一三四	六〇
裁判者的	四三	一九
創造者的	二四	一一
無　爲	一二	五
其の他	九	四
計	二二二	一〇〇

神佛の成生

强・偉・賢人	一八二	八二
死　人	三〇	一四
佛	四	二
神	二	一
其の他	四	二
計	二二二	一〇〇

祈願事項

無祈願	一二六	四九
知的祈願	六〇	二三
身體的祈願	二三	九
南無阿彌陀佛	一九	七
道德的祈願	一二	五
祈禱文句	一一	四
其の他	六	二
計	二五七	一〇〇

死後の世界

墓	一六七	六〇
天	二五	九
佛さんの所	一七	六
燒　場	一四	五
地　獄	一一	四
神さんの所	八	三
極　樂	七	三
病　院	七	三
神になる	五	二
佛になる	三	一
骨になる	三	一

第四表（D）

一番偉いと思ふもの			一番惡いと思ふもの			一番こわいと思ふもの			一番何になりたい		
天皇	七八人	四九%	人（泥棒等）	一一二人	七五%	動物	三七人	二四%	軍人	三八人	二七%
神	二一	一三	動物	一七	一一	人	三二	二一	先生	二五	一八
太陽	一九	一二	鬼	一四	九	お化け	二九	一九	神	三	二
軍人	九	六	道德的	一	一	自然力	二九	一九	其の他（偉い人）	七四	五三
同僚	一	一	其の他	六	四	鬼	二四	一五	計	一四〇	一〇〇
親	一	一	計	一五〇	一〇〇	其の他	四	三			
先生	一	一				計	一五五	一〇〇			
其の他	二八	一八									
計	一五八	一〇〇									

神の姿態			佛の姿態			神の所在			佛の所在		
無姿	五七	六六	無姿	三九	五一	天上	四三	四〇	地上	四九	四七
擬人的	三〇	三四	擬人的	二八	三七	地上	二九	二七	寺	二二	二一
計	八七	一〇〇	非擬人的	九	一二	神社	二七	二五	地下	一七	一五
			計	七六	一〇〇	其の他	九	八	世界中	二	二
									其の他	一二	四
									計	二七九	一〇〇

神佛の行爲		神佛の成生		祈願事項		死後の世界	
德政者的	一〇五 九四	强・偉・賢人	八九 七〇	無祈願	三二 二四	墓	一〇九 七六
無爲	六 五	死人	二二 一七	南無阿彌陀佛	三二 二四	天國	七 五
裁判者的	一 一	神	二 二	道德的	一九 一四	極樂	七 五
		其の他	一三 一一	知的	一四 一〇	地獄	五 三
計	二二二 一〇〇	計	一二六 一〇〇	南無妙法蓮華經	七 五	神	一 一
				日本の戰捷	二一 一六	其の他	一四 一三
				其の他	一〇	計	一〇四 一〇〇
				計	一〇八 一〇〇	計	一四四 一〇〇
				計	一三五 一〇〇		

		神		佛							
A		不知	三二四	不知	二二二						
B		知	六五	知	一五八						
C		計	三八九	計	三八〇						
		神		佛		お墓まゐり					
		棚		壇		有	三一六				
		無有	三〇三	無有	二五九	無	七四				
		計	八九	計	一三〇	計	三九〇				
		計	三九二	計	三八九						
		お宮まゐり		お寺まゐり							
D		有	三五一	有	三二一						
		無	二五	無	五四						
		計	三七六	計	三七五						
		神		佛							
		不知	一三八	不知	一三八						
		知	六	知	六						
		計	一四四	計	一四四						

神棚	有	一一〇	計	一四四	佛壇	有	一〇一	計	一四二	お墓まゐり	有	一〇九	計	一三五
	無	三四				無	四一				無	二六		
お宮まゐり	有	一三二	計	一五二	お寺まゐり	有	一三二	計	一五二					
	無	二〇				無	二〇							

一五〇

七、結　論

右の具體的な諸表により、我々は、就學前期及び低年兒童の宗教心の一般的傾向、並に異れる環境、主義の彼等に與ふる顯著なる影響を認め、且つかゝる宗教心を通して彼等の心性上の特徴をも覗ひ得た。要するに此の時期の兒童に於ては、想像力模倣心極めて盛んであり、神佛を擬人的に考ふる者多く、且つ此の時期の兒童の宗教心は、決して、內的なものでなく外的なものであつて、特に環境の影響を受ける事が著しいことを知り得る。從つて、プラットも云へる如く、「兒童は、教へられるが故に、神を信ずるに至る」ものであつて、宗教心は、かつて一部の學者間に、本能として考へられた事の誤りなるは私のこの研究からも證明され、それは、むしろ情的な反應とでも考ふべきであると思ふ。

右は、私の實驗の結果から直接知られ得る點であるが、最後に、かゝる調査結果の基礎の上に打ち建てらるべき宗教々育——特に就學前期及び低學年の——に對して、いさゝかの暗示を與ふるために、一言所感を述べて諸賢の御檢討を願ふ次第である。

抑々兒童の宗教意識の發達は、兒童の身體的發育及び他の精神發達に伴つて進行するのであるが、その發生について考察するに、兒童は生れ出づると共に、社會の一員となつて、社會の影響下に置かれる。兒童は、生來宗教的な如

何なる經驗も持たない。しかし社會には、既に民族的遺傳として、宗教的なものが存在してゐるのである。生れながらにして、かゝる社會的宗教的雰圍氣に成長した兒童が、言語を理解し得る樣になれば、其の意識內容に社會の宗教的なものが影響される事は明らかである。かくの如く、兒童の宗教意識の內容は社會から與へられるのであるが、それには、二つの過程が存する。その一つは、宗教的社會的環境卽ち、家庭・學校・幼稚園・神社・佛閣・教會等にあつて宗教を信ずる人々の中にゐる時に受ける無意識的影響による過程と、他は、一定の宗教的教義を敎示される場合の意識的影響による過程とがある。而して兒童の宗教意識發生に最初に關與するものは、前者卽ち宗教的社會環境である。かゝる宗教的社會的雰圍氣に浸ることによつて釀し出される兒童の無意識的情的反應こそ、宗教意識の萠芽とも云ふべきものである。兒童にとつて最も重大な環境は家庭である。家庭に於て、かゝる宗教的雰圍氣に缺くる所あらば、たとへ僅かな限られた時間內に於ける宗教的教示などを以てしては、到底かゝる情的反應を惹き起すことは出來ない。實に兒童の宗教意識を發生せしむる最初のものは、かゝる宗教的雰圍氣をおいて他にないのである。

しかし、かくて最初に生れた宗教心は、外的なもので內的なものではない。その意味に於て、之を眞の宗教心と見ることは出來ない。しかしさればとて、この時期の兒童の宗教心は無價値なり、從つて研究する價値もないと斷ずるは甚しき誤りである。何となれば、かゝる外的なものから內的なものへ發達するのが、宗教意識の正常なる發達であるからである。かゝる無意識的影響の特に著しいのは、今こゝに私が研究した兒童、卽ち七歲位迄であつて、この期の兒童は未だ一定の宗教的教義を意識的に攝受し得るに至つてゐない。しかし兒童は、次第に成長し、思考感情の發達に伴ひ、今迄の模倣的無批判的態度をすてゝ、疑問を持つ樣になつて來る。こゝに於てこそ、無意識的影響の過程

より、次の意識的教示の影響の過程へ移るべき時期に達したのである。この時に當つては、吾々は、兒童に理解し得る教示を以て宗教意識の善導に努めねばならぬ。かくして後心身の發達漸く熟するに伴ひ、誤らざる宗教々義の教示を行ふべきである。かゝる時期は、略々十歳以後である。それ以後に於てこそ、實際的宗教々育がなされるのである。重ねて云ふ。此の期兒童の宗教心の内容は、專ら宗教的、社會的環境の影響を受くるものであるから、この期の宗教々育にあつては、宗教的教示をなすが如きことはせず、兒童をして、かゝる環境に浸らしむる事に最も留意すべきである。

以上、私の小研究に就いての論述を終るのであるが、現今我が國に於ても、兒童宗教々育の問題は、益々重要性を加へつゝある。私は、こゝにかゝる宗教々育の基礎となるべき就學前期及び低學年兒童の宗教心に關する調査研究並に所感を述べたのであるが、この研究が兒童の宗教々育上に何等かの寄與する所あらば幸である。

（一三、五、八）

擱筆に當り、本研究に關し、種々御指導御協力下さつた岡道固氏並に調査に際し、快く兒童を借して下さつた諸幼稚園並に小學校の諸先生に厚く感謝の意を表す。